9章1節1 「授業デザインシート」の読み方、使い方

ここでは、研究会で用いた「授業デザインシート」の読み方、使い方を説明します。具体的な使用例は後に続く実践詳細をご覧ください。この説明は、柞磨（2020：126-144）［1］を参考にしています。

科目[　　]　授業者：　　月　日　時　クラス

本質目標		「何のために学ぶのか」という問いの核になるもの。
本質的な問い		「本質目標」から導き出される問い。前提を疑う、多様な答え、複雑な思考を要する、継続的な吟味、思考を広げる、意義を与えるなどを特徴とする。
達成目標	❶ ❷ ❸	下記「問いの構造化」や「生徒の変容」と関連した目標の記述。
レディネス		学習の前提となる基礎的な知識や理解。
関連項目		学習後のどのような学びへとつながるかを記述。
扱う内容	E C I	ICE、それぞれのフェーズで扱う内容。授業展開の順番や内容ではない。簡潔に書く。
達成の手立て	フレーム構成	
		「フレーム構成」には、授業展開をI→C→Eなどの記号で記述。 「達成の手立て」には、授業展開の骨組みとなる内容を記述。ICEのフレームを意識して、学びの流れをつくり出す。
コア(論点)		複数の観点を組み合わせて論じる必要のある論点を記述する。この論点が学びを深めるための核になる。
振り返り	① ② ③	上記「達成目標」との関連の中で、教師や生徒の振り返りを記述する。
デザイン要素	新規、意外、刺激、探究、使命、協働、貢献、身体、面白、社会、持続	選択

問いの構造化

	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	②○○○○○… ③○○○○○…	①○○○○○… ⑤○○○○○…	
洞察を促す問い			
本質的な問い			

授業で扱う問いを書き込んでいく。問いの質と授業の展開に応じて問いを書く場所を変える。「洞察を促す問い」は学びを深めるための議論を要するような問い。扱う問いの順番を数字で示す。E の問いから順番に考えていくと、学びの流れを意識することができる。

生徒の変容

	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能			
教科・科目に特有の見方・考え方			
汎用的な能力			

生徒の変容を記述。横が学びの質、縦が観点。観点ごとに記述した ICE ルーブリックに相当する。「問いの構造化」や「扱う内容」、「達成目標」と関連する。

評価

	Ideas	Connections	Extensions
知識・技能	A・B・C・D　[　]	A・B・C・D　[　]	A・B・C・D　[　]
見方・考え方	A		
汎用的能力	A		

「生徒の変容」を元に評価。[　]内に数値を書くこともできる。

《参考文献》
1　柞磨（2020）「生徒も教師も楽しめる問いづくりの実践　学びが変わる問いのフレームワーク」日本橋出版